

10月1日（火）3年2組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「仕事のくふう、見つけたよ」です。伝えたいことを分かりやすく報告文に書くことが目標です。社会科の学習で見学した、スーパーマーケットの工夫について、2年生に伝えるための報告文を書く学習です。

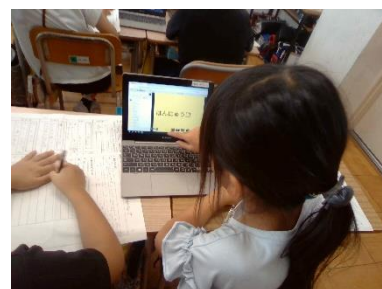
初めに、「分かりやすい報告文」について考えました。モデル文を二つ用意し、比較させました。モデル文は、どちらも同じようなことが書いてありますが、片方は仕事の工夫を具体的に示しています。児童は、分かりやすく書かれているモデル文から、『スイカやトウモロコシがおすすめ』と書いてある」や「ここがいいんだよという気持ちが分かる」と、具体的に書かれているところを見付け、そのよさに気付くことができました。さらに二つのモデル文を追加で示し、お店の人に聞いたことはかぎっこ（「 」）を付けて書くことや、『・・・』とおっしゃっていました」のように文末表現に気を付けることを押さえました。



【モデル文を比較する様子】

次に、報告文を書き始めました。スーパーマーケットに見学に行ったときの様子は、場所ごとにタブレットの共有ソフトで写真資料として保存されており、児童はいつでも見て思い出すことができます。

児童は、内容に合わせて小見出しを付けたり、モデル文を参考に、自分が伝えたいことを書きました。早速、お店の人に聞いたことをかぎっこを付けて書く児童もいました。



【タブレットを操作する児童】

最後に、グループになり、互いの文を読み合いました。グループの司会の児童が、チェック項目を読み上げ、正しく書くことができているかを確認しました。中には、『どこに』が書いてあるといいんじゃないかな」「ここに『バックヤードに』と書くと、分かりやすいと思う」と、アドバイスをし合うグループもありました。



【報告文を読み合う児童】

振り返りでは、多くの児童がメモのときより詳しく書いたり、お店の人の話を加えたりすることができたと振り返っていました。内容が伝わりやすい文の例を、そうでない文と同時に示すことで、伝わりやすい文にするために大切なことに気付かせることができました。「書くこと」の指導では、モデル文を示し、どのような文を書けばよいのか、どのように書くのかを教える必要があります。その際、ただ教師が示すだけでなく、児童に考えさせながら気付かせることで、実感として「書き方」が身に付き、分かりやすい報告文を書くことができるようになるのだと思います。